

(公社) 北九州市獣医師会 会長
せき動物病院 院長

関 一弥 先生

KAZUYA SEKI

災害が起きる前に。獣医師ができること 飼い主ができること



■ 獣医師の仕事は「動物のお医者さん」だけではありません

「獣医師」と聞くと、皆さんはどんな仕事を思い浮かべますか？犬や猫を診察する「動物のお医者さん」。もちろん、それも獣医師の大切な仕事です。しかし、獣医師の仕事は、それだけではありません。獣医師は、ペットの病気を治すだけではなく、ワクチンや寄生虫予防、正しい飼い方などを飼い主さんに伝え、ペットから人へ病気が広がることを防ぐ役割も担っています。

■ 人・動物・環境を一緒に守る「One Health」

ここで大切なのが、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全」は、別々のものではないという考え方です。人、動物、そして環境。この3つを一緒に考えて健康を守っていく考え方が、「One Health（ワンヘルス）」です。そして、この考え方は、災害が起きたときにも非常に重要になります。

■ 災害時のペットの健康は、地域全体の問題

地震や大雨などの災害が起こると、家が壊れたり、塀や扉が壊れたりして、犬や猫などのペットが逃げ出してしまうことがあります。普段は飼い主さんの管理のもとにいる動物たちが、突然、地域の中に出てしまうのです。その中に、ワクチン接種やノミ・マダニ予防などが十分にできていない動物がいれば、動物同士の接触によって感染症が広がる可能性があります。また、動物の排泄物などによって、地域の衛生環境が悪化すること考えられます。つまり、災害時のペットの健康管理は、そのペットだけの問題ではありません。地域の動物を守り、地域の環境を守り、そこに暮らす人々の健康を守ることにもつながっているのです。

■ 避難所でも大切な日頃からの予防

避難所でも同じです。災害が起きると、多くの人と動物が同じ地域、同じ避難所に集まります。普段とは違う環境の中で、動物同士の接触が増え、人と動物との距離も近くなります。だからこそ、日頃からの予防が大切です。犬の狂犬病予防接種。混合ワクチン。ノミ・マダニ予防。そして、日頃のしつけやクレートトレーニング。これらは、ペットを守るためだけのものではありません。避難所で一緒に過ごす人や動物、そして地域全体を守るための準備でもあるのです。また、ワクチンは「打ったその日から完全に安心」というわけではありません。ワクチンの種類や動物の状態によって異なりますが、十分な免疫ができるまでには時間がかかります。だからこそ、災害が起きてからではなく、元気な今から予防しておくことが大切です。

■ はぐれたときのための備え

そして、防災の準備は、餌や水だけではありません。ペットの写真や、マイクロチップ番号などの個体識別情報も準備しておきましょう。災害時には、ペットとはぐれてしまうことがあります。そんなとき、写真や個体識別情報が、再会するための大切な手掛かりになります。その他の災害への備えについては、環境省の「人とペットの災害対策ガイドライン」なども参考にしてください。

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h3009a/a-1a.pdf

■ 災害時に活動するVMAT

そして、災害が起きたとき、獣医師は動物病院で診療するだけではありません。被災した動物の健康管理、避難所でのペットの健康相談、感染症の予防、飼い主さんへの助言など、さまざまな活動が必要になります。こうした災害時の獣医療を支える仕組みの一つが、VMAT（災害派遣獣医療チーム）です。VMATは、獣医師や愛玩動物看護師などがチームとなり、行政や関係団体と連携しながら、災害時に被災した動物と飼い主さんを支援します。しかし、災害が起きてからできることには限りがあります。だからこそ、VMATなどの災害時の支援と、飼い主さん一人ひとりの日頃からの備えがつながることが大切なのです。

■ 動物を守ることは、人と地域を守ること

獣医師は、動物の病気を治すだけの仕事ではありません。動物の健康を守ることを通して、人の健康を守る。そして、人・動物・環境の健全な関係を守る。それが獣医師の仕事です。そして災害のときには、その役割がさらに大きくなります。「ペットを守ること」と「人を守ること」は、別々ではありません。

あなたのペットの予防が、あなたを守る。
あなたの予防が、周りの人と動物を守る。
みんなの予防が、地域を守る。

災害への備えは、災害が起きてから始めるものではありません。何も起きていない今日から始める。それが、ペットと暮らす私たちにできる、いちばん身近な防災なのです。



九州地区獣医師会連合会 VMAT連合チーム「九州VMAT」